



JAPANESE HEAVY CRUISER
重巡洋艦 まや

MAYA 摩耶

WATER LINE SERIES



組み立てる前に必ずお読み下さい

- 組み立てモデルですので、作る前に組み立て説明書をお読み下さい。
- 部品を取り出した後のビニール袋は、小さな子どもが頭から被ったりするや窒息する危険がありますので、破り捨て下さい。
- 部品はきれいに切り取り、切り取ったあとのクズは捨て下さい。
- 部品は、商品名がすべてなくついている所が危険です。
- 使用目的以外は、絶対に遊ばないで下さい。特に小さなお子様のいる家庭では注意して下さい。
- 部品の切り取りにはニッパーを使用し、バリ等の余分な部分はナイフ、ヤスリ等で仕上げます。また、ニッパー、ナイフ、ヤスリ等を不用意に振り回すと、刃先等で手、指、髪などを切る可能性がありますので10歳以下の方は、保護者の方が行って下さい。
- 小さな部品がありますので、誤って飲み込まないように注意して下さい。

- 鋭い刃物や針などがあります。ご注意ください。
- 顔の危険がありますので、ご注意ください。
- （接着剤、塗料を使用する場合は）「下記」に注意して下さい。
- ★接着剤、塗料は口の周りに入れないで下さい。中毒の危険があります。
- ★接着剤、塗料が目に入った時は、すぐに大量の水で洗い流して、医師に相談して下さい。
- ★鋭く切った室内では使用しないで下さい。中傷の危険があります。
- ★近くでの火の使用も絶対に止めて下さい。引火する危険があります。
- 直射日光の当たる場所や、高温・多湿になる場所には放置しないで下さい。



（お客様へ）

- ★部品を紛失されたり破損された方は、はがき・FAX・Eメールで
- ①商品のシリーズ名・シリーズ番号・商品名・パーツ名
- ②お客様の氏名・郵便番号・住所・電話番号
- をご記入の上、サービスセンターまでお申し込み下さい。
- ★商品の代金は、郵送手数料、送料、郵政用紙代を記入の上、最寄りの郵便局にて2週間以内にお支払い下さい。
- ★お品価格には送料、消費税が含まれています。
- ★お品価格の注文はトラブルのもとになりますのでご連絡下さい。
- ★商品の性質（着色料・発火性）は、必ずよく要約される場合がございます。万一商品と不良品がございましたら、サービスセンターまでお送り下さい。良品と交換させていただきます。

シリーズ名	1/700 WLシリーズ	船体	500円	島高・摩耶パーツ	500円
シリーズ番号	No.339	船底パーツ	500円	摩耶パーツ	500円
商品名	摩耶	主砲パーツ	500円		

連絡先: (株)青島文化センター アオシマ・サービスセンター (平日 9:00~17:00)
〒420-0922 静岡県流通センター12番3号
TEL:054-263-2595 FAX:054-263-5230
Eメール:service@mail.aoshima-bk.co.jp

アオシマインターネットホームページ <http://www.aoshima-bk.co.jp> 2001.9

＜マリアナ沖海戦と摩耶＞

昭和18年8月、重巡「摩耶」はラウルに遭遇するが、ここで空襲に遭い、爆発の命中によって中破の損害を受ける。結果、内海に回航して修理することとなるが、大艦に向上された「摩耶」ではなかったが、対空兵器の充実と強化を行う事になった。対空兵器の強化は、前部第3連装機銃を降ろす、ここに25ミリ3連装機銃3基分の機銃座の設置と127センチ高角砲を2基搭載するといふものであった。このため、主砲座力は20%減少となるが、海戦の様相が対空戦闘に移行し洋上で艦隊対艦以上の空戦が行われ、主砲座力20%減少、127センチ高角砲12門、25ミリ機銃3基搭載するといふ強化は、127センチ高角砲の対艦威力は、25ミリ機銃と同じ、25ミリ機銃にしたのは同型艦に劣る事であった。対空戦闘の苦しい強化を実施した重巡「摩耶」は、空母の護衛担当として閉居された。昭和19年6月、米軍はサイパン島に上陸を開始する。南方からの輸送船を確保するための重要な防衛拠点であり、米軍側からは戦略要衝129の基地とす。飛べないため日本本土を攻撃範囲に入ることができず、対空戦闘の執行上極めて重要なものであった。日本海軍は、米軍との決戦を武蔵・蒼龍・空母「大鳳」を初め「摩耶」「高島」「愛宕」「島風」など重巡10隻を基幹とする艦隊を編成した。これがマリアナ沖海戦で、米機動部隊は当初、日本の機動部隊を捕獲す。一方的な空襲にさらされる状態であった。本来なら日本側の勝利に輝くべきであったが、戦は潜水艦による雷撃で「大鳳」「翔鶴」を、さらに「飛龍」を米艦機動部隊の航空攻撃と潜水艦の雷撃で失い、さらにレーダーの誘

導によって防空体制をしいた米艦上戦闘機群の前に、日本機動部隊の攻撃機200機が撃墜されるという大敗となった。この海戦は、日本海軍から航空戦力を奪い去り、航空戦の遂行能力を組織的に壊滅させたといえる。ところで防空能力を大艦に向上された「摩耶」ではなかったが、この海戦でそれだけの戦果をあげたことは不明である。この戦いの後には、日本海軍は艦隊力面で直しを充分はかる前に米軍はフィリピンへの侵攻を開始し、ここにイオウ沖海戦が起きることになる。この海戦では「摩耶」はパラワン水道を遊撃中に米国潜水艦「ダズ」が発射した米魚雷を左舷に受け、また米軍に大損害を起こし、まさに轟沈した。高角砲は米艦の魚雷の内の1発が命中し、高角砲は沈没した。高角砲の沈没は、この海戦で沈没した艦隊の内の1隻に過ぎない。

＜高層型の塗装指示につきまして＞
市道洋艦「高層」型は、船体を始めとする艦上構造物の塗装を艦隊と同様、濃い灰色で塗られておりました。この色は、「少し青みがかった濃い灰色」といふ表現が使われています。甲板は、リアリウム集りと鉄板張りの部分があり、艦上構造物と同じ灰色で塗装されておりました。煙突の上部は艦隊指示の型でこの時代に用いられておりましたが、戦前にみられるような黒白の帯状の艦隊指示の型で塗られておりました。主砲座の基部は、キヤンパスで塗られておりました。航行のときを戦時中は、うす茶色に塗られておりました。船体の魚雷発射口は、高角砲の発射口にはキヤンパスで覆ってありましたが、船体の魚雷発射口は、高角砲の発射口の白が、うす茶色で塗ってよくとよいでしょう。

- 日本軍艦色又はミディムブルー
- ウッドブラウン又はレッドブラウン



